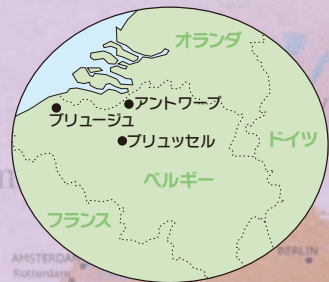


# ベルギー・ブリュージュの話

ドイツといえばビールとソーセージ、フランスといえばワインとフッシュョンだが「ベルギーといえば？」と問われて、すぐに「○○!!」と具体的なイメージが浮かぶことはないかもしれない。強いて言えば「フランスの犬」くらいだろうか？

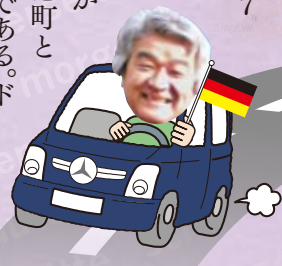
1830年にオランダから独立した人口約1065万人の国・ベルギー。面積が岩手県の2倍ほどしかなく、フランス語、フランマン(オランダ)語、そしてわずかではあるがドイツ語を話す国民に分かれている(こういうのが日本人には理解できないと思う)。首都のブリュッセルは人口百万人を抱える大都市であり、ヨーロッパ共同体の本部がここに置かれている。

見どころとしてはこのブリュッセル、『フランダースの犬』の舞台となったアントワープ、世界最小の町と言われるデュルブイ、中世の町ブリュージュといったところだろうか。何を隠そう、私はこのベルギーという国が大好きである。そして、中世のレンガ造りの小さな建物が立ち並ぶブリュージュという町が特



に好きで、少なくとも7〜8回は訪れている。

ブリュージュは、町全体が世界遺産に指定されており、12世紀から14世紀まで北海の港町として非常に栄えた場所である。ドイツのハンザ同盟都市の在外商館が置かれ、イタリアのジェノヴァの商人も地中海を越えてこの町を訪れた。ちなみに「ベルゼ(株式)」という言葉はこの町から発生した。



日本人ドライバーガイド藤島のつぶやき  
ボクの相棒はメルセデス [その8]

隆盛を誇ったこの町の商人は、当時のイギリス王侯貴族より立派な衣服を身に着けていたと言われており、いかに力を持っていたか想像がつくだろう。

ところが15世紀以降、この町の運河やズウィン湾に土砂が堆積し、船の航行が不可能となった。交易の中心はアントワープやブリュッセルに移り、町は衰退していく。つまり急速に貧しくなったために、当時のまま残された町並みが世界

遺産に指定され、今では世界中の観光客を魅了しているというわけである。

さて、私がブリュージュを知ったきっかけは、学生時代に知り合ったオランダ人を見せてくれたスライド。訪れた時の素晴らしさを熱

く語ってくれたことがあり、いつか行ってみたいと思っていた。

河、町の象徴である鐘楼、白い石で彩られた州庁舎や市役所、ベギン修道院(オードリー・ヘップバーン主演『尼僧物語』の撮影に使われた)、ミケランジェロの聖母像が置かれている聖母教会。民家の大きな窓にはカーテンがなく、その家庭の居間が見えてもよいように、それぞれが工夫を凝らして飾り付けをしていること



州庁舎



運河から鐘楼を望む

など…むさい私のような男でさえも「はあ〜っ」と感激というか、ほんわかとした感動が湧

き上がってきたのを覚えている。ギルドハウスが立ち並ぶ町の中心地、マルクト広場にある鐘楼の366段の階段を登り、カリヨンの機械室を通り過ぎると展望台にたどり着く。運動不足の身にはかなりきついですが、眼下に広がる赤い屋根の建物と運河は「これはいい!」と思わせること間違いなし。運河めぐりの小さな観光用乗り合いボートに乗るのもお忘れなく。いろいろな見どころを手短かに案内してくれるし、歩くのとはまた違った光景が目に入ってくる。

文・写真/藤島 淳一

1952年生まれ。北秋田市(旧鷹巣町)出身。大学卒業後4年間のサラリーマン生活の後渡欧。1980年~85年旧東独ゲルリッツ市立劇場オーケストラ団員。1986年よりドイツ旅行をする日本人のためのドイツ語通訳兼ガイド業を開始。リムジンドライバーガイドとしてドイツとその周辺諸国の個人旅行向けのガイドをしている。  
<http://romantis.web.infoseek.co.jp>

ギー産ビールで。毎回、この数年で上がった物価と「いつ生牡蠣に当たるか?」という不安にびくびくしながらも、「この町の雰囲気と合わせれば決して高くはないし、何しろおいしいんだから!」と思いつつながら食べている。



鐘楼から眺めた町の模様